

平成28年(2016年)3月9日(水曜日)

レアメタル再生 資源技術研究会

中部地区大手鉄スクラップ
ヤード業者の大脇商店(本社
・岐阜県各務原市、代表・大
脇富士子氏)の岩田和也常務
は3日、岐阜県各務原市内で
行われた希少金属の再資源化
技術の研究、情報交換などを
行うレアメタル再生資源技術



講演する岩田氏

「ネオジム回収事業」テーマ

岩田氏(大脇商店常務)が講演

研究会(会長・藤田豊久東京大
学大学院工学系研究科教授)
のオープン合同分科会で、同
社の事業の新たな柱として育
成しているネオジム磁石スク
ラップからのネオジム、ジス
プロシウム回収事業につい
て、講演を行った。

岩田氏はネオジム磁石スク
ラップを取り巻く現状とし
て、2011年をピークにし
アメタル原料相場が下落して
いる一方で、同磁石から希少
金属を抽出するコストは変わ
っておらず、採算を確保しに
くくなったと説明。このため、
同磁石そのものがリサイクル
品として海外に流出している
ことや、中にはレアメタル原
料相場が上昇するまで、一時
的にストックする排出元もある

り、同磁石を安定的に調達す
るのが難しくなっているとも
付け加えた。
同社では12年ごろに、同磁
石からネオジム、ジスプロシ
ウムを回収する事業に進出。
現在では回収装置を本社工場
内に設置し、レアメタルの回
収を進めている。岩田氏は
「回収技術は確立されつつあ
るが、同事業は原料相場の影
響を受けやすい。同事業の継
続には、再資源化コストをさ
らに低減させるなどコスト競
争力を高められる技術を追求
するほか、国内で希少資源を
循環させられるよう、行政に
よる新たな仕組みづくりが必
要ではないのか」と締めくめ
た。